

喫煙所

作
萩原宏紀

男1
男2
女1
女2
女3
女4

それだけはもう確かに、そこは喫煙所である。四方の壁は厚いガラス、上手と下手にドア、中央には腰上くらいの高さの机(おそらくは吸煙装置であろう)、背の高い椅子がいくつか。そして、そのどれもが、誰もかれもに忘れ去られたかのように、古び果てている。しかし、灰皿はない。

上手から男1が現れる。スーツ姿で、平均的な日本人男性といった風。

男1は煙草を取り出すと、ライターがないことに気づく。焦って身体中のポケットを探っていると、下手から女1が現れる。

典型的な主婦といった風。ふんわりしたロングスカート。

女1は煙草を取り出す。

男1 あの……
女1 はい……?
男1 いえ、その……
女1 はい……
男1 いや、それが、その、ちょっと見当たらないんです……
女1 ええ……
男1 それが、その(と、手に持った煙草を示す)、これの……
女1 ええ……
男1 そうなんです……
女1 持ってはりますよ……?
男1 はい……?

女1 セヤから煙草……
男1 え?
女1 ええ……
男1 ああ……

女1、火を探す。

男1 あれ……?
女1 はい……?
男1 それじゃあ、わたしはなにを探してたんですか……?
女1 そんなん私に聞かれても……
男1 そうですよね……
女1 セヤから、その、煙草でしょう……?
男1 ああ……
女1 どこにやったかしら……
男1 なにかお探ですか……?
女1 ええ……(煙草を示し) これのね……
男1 持ってはりますよ……?
女1 はい……?
男1 セヤから煙草……
女1 ああ……
男1 ええ……
女1 ええ……(ややあって) いや、そうやなくて、(煙草を示し) これの、その、ほら……いりますでしょう……? これの、あれする……
男1 (ややあって) ああ。
女1 ええ……
男1 ええつと……(と、火を探す)
女1 ごめんなさい、よければお借りできますかしら……?
男1 ええ……あれ……?

女1 はい……？
男1 いや、どこやったかな……
女1 なにが……？
男1 せやから、これの……（と、煙草を示す）
女1 あれする……？
男1 ええ……それです……あの……
女1 はい……？
男1 その、よろしければ、わたしにも貸していただけないでしょ
うか……？
女1 なにを……？
男1 せやから、その、あなたが借りるそれを……（少し焦って）
もちろん、あなたの後でかまいませんから……
女1 ええ、全然かまいませんよ。
男1 すみません……いや、つい、うっかりしてまして……
女1 うっかり？
男1 ええ、うっかり……
女1 どううっかりしてたんですか？
男1 どう……？どうと聞かれましたも……
女1 それがわからんと私も……
男1 そうなんですか……？
女1 そりゃあ、どうやって貸してよいのやら……
男1 そうですか……
女1 知らないよこれが出来ないことを知らなかったんですか？
男1 もちろん知ってますよ。
女1 じゃあ、そういううっかりやないんですね。
男1 そういううっかりやありません。なんと言いますか、こう、
家を出るときに……
女1 家を出るときにうっかりしたんですね？
男1 いや、家を出るときはしっぴかりしてましたが……
女1 しっぴかり？

男1 ええ、しっぴかり鍵を閉めてでましたから……
女1 そうなんですか？
男1 ええ、それははつきりしてるんです……
女1 あの……しっぴかりやはつきりの話やなくて、うっかりの話を
聞きたいんですけど……
男1 すみません……確かにうっかりしたはずなんですけどね……
女1 うっかり家を出てしまったんですか？
男1 はい……？
女1 せやから、家を出るつもりはなかったのに、こう、うっかり
家を出てしまったんですよ。
男1 なぜ……？
女1 私は知りませんよ……
男1 そんなことってありますか……？
女1 なぜ、家を出たんですか？
男1 それは……なんでやったかな……
女1 ほら……
男1 いや……朝でしたからね……
女1 朝？
男1 ええ……朝でしたから、その、目が覚めるでしょう？歯を磨
いて、朝ごはんを食べて、そしたら家を出るんですよ……
女1 待ってください……あなたは歯を磨いてから朝ごはんを食べ
るんですか？
男1 ええ……
女1 それやと歯を磨いた意味がないやないですか……
男1 だって朝起きたら、まずは歯を磨くでしょう？
女1 歯は朝ごはんの後に磨くんですよ……あなた、歯磨きをなん
やと思ってるんですか……
男1 そんな、それはわたしの自由やありませんか……
女1 せやけど、その自由であなたは虫歯になるんです。
男1 虫歯……？

女1 そうです……ジユウはムシバを産むんです……
 男1 ジユウはムシバを……なんておそろしい……
 女1 気をつけなさい……
 男1 ええ……うっかりしてました……
 女1 うっかり？
 男1 ええ……（気づいて）あ、うっかり……
 女1 そういううっかりやったんですね。
 男1 ええ……どういううっかりでしたか……？
 女1 はい？
 男1 いえ、もし、また誰かにどういううっかりか聞かれたらすぐに答えられるようにしたいのですが、どういううっかりでしたか……？
 女1 ええ……？
 男1 いや、今、あなたが言いはったようなうっかりですよ。
 男1 ジユウをムシバに……
 女1 それは私が言うたんです……ジユウをムシバに……？
 男1 あれ……？ジユウがムシバに……？（と、煙草をくわえる）
 女1 （火がついてないことに気づき）あなた、それ……
 男1 あら……？
 女1 確かにあるはずなんです……（と、火を探す）
 男1 すみません……つい、うっかり……
 女1 うっかり？
 男1 ええ……（気づいて）あ、うっかり……
 女1 よかった……あ、ありましたよ……（と、マッチ棒を1本取りだす）
 男1 マッチですか……？
 女1 マッチですね……
 男1 ああ、マッチ……
 女1 すみません……
 男1 いやいや、マッチでもなんでも、（煙草を示し）これがやれたらええんですから……

女1 いや、そうやなくて……
 男1 はい？
 女1 マッチがないんです……
 男1 間違いない？
 女1 いえ、マッチがない、です……
 男1 間違いは……？
 女1 ありません……
 男1 では、やはり間違いない……
 女1 間違いつてなんですか？
 男1 間違いは間違いでしよう……
 女1 私のなにが間違つてると言うんです？
 男1 いや、そんなことは……
 女1 言うたやないですか。
 男1 それはなにかの間違いですよ……
 女1 間違つているのはあなたですか？
 男1 わたしが……？
 女1 ええ……なにを間違つているんです？
 男1 なにを……？
 女1 それがわからんことには、また同じ間違いをさせていただきますよ。
 男1 そうですね……わたしはなにを間違つたのでしょうか……？
 女1 だから、そんなん私に聞かれても……とりあえず、反省なさ
 男1 反省？
 女1 ええ……とにかくまずは反省をしてみます。
 男1 反省つてどうやるんですか……？
 女1 （驚いて）あなた、反省したことがないんですか？
 男1 （焦って）ありますよ。
 女1 ではそれをやりなさいな。
 男1 やりますよ……ただ、この場合はそれをどうやってやるの

かつて……

女1 やっぱり、反省したことがないんじゃないですか？

男1 (やや強く) ありますよ。

女1 じゃあ、どうしてやれないんです？

男1 やれるんです……わたしは本当に反省をしてきたんですか

ら……

女1 証拠は？

男1 証拠……？そんなものありませんけど……

女1 探さないな。

男1 なにを……？

女1 せやから、その証拠を……

男1 ええ……(と、証拠を探す)

女1 ついでに、マッチも探してください。

男1 マッチって……それはマッチやないんですか……？

女1 マッチです。

男1 マッチですか……

女1 マッチなんですけど、その、私が言いたいのはこのマッチや

なくて……

男1 わたしはそのマッチでかまいませんよ。

女1 せやから、このマッチやなくて、マッチをこうあれするマッ

チがないんですよ……

男1 わたしが欲しいのはそのマッチなんですけど……

女1 せやけど……

男1 なにか……？

女1 せやから、マッチをあれするマッチがないと……

男1 でも、それはマッチですよ……

女1 ダメなんです……

男1 なぜ……？

女1 それがマッチです……

上手から女2が現れる。女学生風。年齢的にはもつとも若い。
煙草を取り出す。

男1 あの、すみません……

女2 え……？

男1 いえ、その、煙草……

女2 (慌てて) ここ、ダメでしたか……？

男1 え？

女2 てっきり吸うてええ場所なんかと……

男1 いや、そういうわけやなくて……

女1 てっきり？

女2 ええ……てっきり……

女1 どうしてそう思うんです？

女2 はい……？

女1 どうしててっきり吸うてええ場所や思うんです？

女2 どうして……いえ、てっきり喫煙所かと思うて……

女1 ええ、喫煙所です。

女2 え？喫煙所なんですか？

女1 ええ……なんやと思うんですか？

女2 てっきり喫煙所かと……

女1 ええ、喫煙所です。

女2 え？喫煙所なんですか？

男1 (女2に) あなたはもしかしたら、てっきりここが喫煙所や

から煙草を吸うてもええと思うたんじゃないですか？

女2 (ひどく傷ついて) すみません……

男1 いや、そんなつもりや……

女1 てっきり喫煙所やから吸うてもええと思うたんですか？

女2 ええ……てっきり……

男1 まあ、あまりそういう言い方はね……

女2 すみません……

女1 私は別にかまいませんけど、(男1を指し) この人がね……
男1 わたしがなんですか？
女1 なんですって……せやからそういうことでしょう？
男1 わたしはそんな……
女2 すみません……
男1 わたしはただ、(煙草を示し) これをやるうかと……
女2 すみません……
男1 だから……(取り繕うように) そういえば、あなたあれを
持ってますか？
女2 どれですか……？
男1 せやから、あれですよ……
女2 あれ……？どれです？
男1 (女1に) どれですか？
女1 マッチですよ。
女2 マッチですよ。
女2 あったかしら……(と、マッチを探す) マッチ？マッチなん
かどうかするんです……？
男1 (女1を指して) この人が持つてるマッチをあれするんです
よ。
女2 マッチ持つてはるんですか……？
男1 わたしじゃなくてね……(女1を指して) この人がね……
女2 じゃあ、それ借りたらええなやいですか……
男1 いや、せやから、そのマッチをあれする……(女2の鞆の中
に手をいれ) これやないですか？
女2 (それを避け) ちよつとやめてくださいよ。
男1 なんですか……？
女2 人の持ち物を……
男1 (慌てて) そんなつもりやないですよ。
女2 どんなつもりですか？

男1 どんなもこんなも……そんな、人を盗人みたい……
女1 ぬすつと？
女2 なにもそんなこと言うてませんやんか……
女1 (男1に) あなた、盗人なんですか？
男1 だから、やめてくださいよ。
女1 でも自分でそう言うて……
男1 違いますよ……わたしが言いたいの、それじゃあ、わたし
が盗人みたいやから、それはどうなかつてことをね……
女1 ほら、やっぱり盗人みたいなんやないですか……
男1 いや、だから、それじゃあ、わたしが盗人みたいですから
ね……いや、せやから、この場合はですね、わたしが盗人みたい
やから……
女1 盗人みたいなんですよ。
男1 わたしはなにを盗んだんですか……？
女2 私のマッチ……
男1 違います、違いますよ……
女1 証拠は？
男1 証拠は……(と、証拠を探す)
女1 あるんですか？
男1 ありません……
女1 やっぱり……
女2 なんでわたしのマッチを盗んだんですか？
女1 それは、その、(煙草を示し) これを……
女2 え？こつて煙草を吸うていいんですか？
男1 そりゃあ、喫煙所なんですから……
女2 (男1に) せやけど、あなたがさつき吸うたらあかんつ
て……
男1 そんなこと言いやしませんよ……(女1に) 言いました
か……？
女1 言うたんやないんですか？言うてもないことをこの人も聞か

ないでしように。

女2 言うてましたよ。

男1 言うたんですか……

女2 どうしてなんです？

男1 いや、だって……ここは喫煙所ですから……

女1 セヤけど、あなた（煙草を指し）それ……

男1 いや、そんな、わたしはまだやってませんよ……

女2 セヤけど、やろうとしてはったんやないんですか？

女1 やろうとしてはりましたよ。私はそれを見ましたよ。（煙草を指し）それをしっかりと口に啜えて……

女2 口に啜えたんですか？

男1 いや、それは……

女1 いいえ、確かに口に啜えてはりました。

女2 そんなの、まさに動かぬ証拠やないですか……

女1 （男1を指し）この人はさつきから動いてはりますよ。

女2 え？

女1 動いてます。

女2 じゃあ……動く証拠……

女1 ええ、まさに動く証拠ですよ、あなたは……あなたが証拠で

すか？

男1 はい……？

女1 あなた、さつきから証拠を探してはったでしょう？

男1 ええ……え？わたし？

女1 ええ……まさにあなたが証拠やっただんですよ……

男1 なにのです……？

女1 知りませんよ……

男1 そんな……

女1 じゃあ、なにの証拠やないんですか？

男1 なにの……？

女1 簡単なことですよ……なにの証拠やないかがわかれば、なに

の証拠かわかるでしょう？

女2 論理的ですね。

男1 わたしがなにの証拠でないか……？

女1 それもわからないんですか？

男1 ええ……

女1 あなた、それでも証拠ですか？

男1 そんなこと言われても……

女1 しっかりなさいな……証拠はとても大事なですよ……

女2 そうですね……

女1 そうですよ……証拠はハンザイのカイケツにとっても重要なんですから……

女2 （男1を指し）この人はハンザイの証拠なんですか？

男1 違いますよ。

女1 なんてそんなことが言えるんです？

男1 わたしはだって、ハンザイやなんて……

女1 セヤけど、自分がなにの証拠かわからないでしょう？

男1 それは……

女1 ならばハンザイの証拠かもしれないやないですか……その罪

の、いえ、すべての罪の証拠かもしれない……

男1 そんな……わたしはただ、（煙草を示し）これをやろうと……

女2 なんて人……この期に及んで……

女1 この前ですよ。

女2 え？

女1 セヤから、煙草のあれは……

女2 ああ……じゃあ、この前に及んで……

男1 この前って……？

女1 この前ですよ……今日よりずっと前からあなたは……

男1 わたしはいつたいなにをしたんです……？

女1 そんな、人に聞いてばかり……

女2 自分のことでしょう……

男1 そんな……

上手から男2が現れる。色褪せたセーターにゆるいズボン。気のよさそうなおじさん風。

男2は3人をなんとなくに見て、煙草を取り出す。男1、女1、女2はなんとなくに見られた後……

女1 ところで……

女2 はい……？

女1 これ……（と、煙草を示す）

女2 ああ……（と、火を探す）

男1 なんて吸うたらあかんのやろか……

女1 なんですか？

男1 いや、煙草……

女1 自分で言うたんでしょ……

男1 そうなんですけどね……

女2 （ライターを取り出し）ライターでええかしら……？

女1 マッチです。

女2 ですよ……

男1 ライターがあるんですか？

女2 ええ……でもマッチは……

男1 それでもええんやないですか……？

女1 それでどうやってマッチをつけるんですか。

女2 そうですよ。

男1 せやから、（煙草を示し）これがやれたらええんですから……

女1 あなたは、まだ……

男1 いや、でも……

女2 でも確かにやれんことはないんやないですか……？（と、女1に渡す）

女1 まあ……（受け取り）どうも……

男1 あ、わたしにも……

女1 あなたはダメですよ。

女2 そうですよ。

男1 そんな……

女1 あなたが言い出したんですから。

女2 そうですよ。

男1 ええ……

女1 （ライターの火が付かない）あら……？

男1 どうしたんですか……？

女1 つかない……

女2 え……？

女1 つかないんです……

男1 ガスがないんやないですか……？

女1 ガス……？

男1 どれ……（と、ライターを取ろうとする）

女1 ちよつと……（と、それを拒否）

女2 まさか……（と、ライターを取る）

女1 （男2に）あの……

男2 （なにかを探していた手をとめて）はい……？

女1 いえ、ガスを持つてはりませんか……？

男2 ガス……？

女1 ええ……

女2 つきませんね……

男2 ガス……（と、再び探し始める）

男1 （男2に）あの……

男2 （手をとめて）はい……？

男1 ここつて煙草を吸ってもいいんですかね……？

男2 え？

男1 まずいですかね……？

男2 さあ……わたしなんかは、ここは喫煙所やないかと思うてき

たんですけど……

男1 ああ……

男2 違いましたかね？

男1 いや、わたしもそうやないかと思うんです。

男2 喫煙所やのに煙草がまずいんですか？

女1 なんですか、それ？

男2 なにが？

女1 喫煙所やから煙草がおいしいとかまずいとか。

男2 そんなこと言うてませんよ……

女2 え？こことてそういう場所なんですか？

男1 どういう……？

女2 セヤから、なんや煙草がまずくなるような……

男1 (男2に) そうなんですか……？

男2 いや、だって、そういうのは個人差があるんやないです

か……？

女1 個人差ってなんですか？

男2 個人差は個人差ですよ……

女1 あなたと私にどんな差があるんですか？

男2 いや、そんなこと聞かれても……

男1 (男2に) あなたは男性で、(女1に) あなたは女性やないで

すか。

男2 そうですよ……

女1 では、(男2に) あなたと(男1に) あなたの個人差は？

男2 セヤから、わたしは男性で……もしかして、あなたも男性で

すか……？

男1 詳しく調べたことはありませんが、おそらく……

女1 あなた方は同一人物ですか？

男2 そんな、まさか……

女1 だって個人差がないんでしょに……

男2 全然違いますよ……顔なんかほら、わたしのほうが……

男1 なんですか……？

男2 え？

男1 わたしの顔がなんですか？

男2 なにが……？

男1 あなた、そんなことを言うなら、性格なんかわたしのほうが、

そりゃあ……

男2 性格やなんて、あなた、そんなものはわからんでしょ……

男1 わかりますよ。少なくともわたしは他人の顔に対してそんな

な……

男2 なんも言うてないやないですか……

男1 言いましたよ……

男2 言うてませんよ……

男1 言うたも同然やないですか。

男2 なにをですか？

男1 セヤから……どうなんですか？

男2 なにがですか……

男1 わたしの顔についてですよ。

男2 なんも思つてませんよ……

男1 なんも思つてことはないでしょう……(女2人に) あなた方

は……？

女1 はい……？

男1 あなた方もわたしの顔が、なんやあれやと思うんですか？

女2 なんですか、なんやあれつて……？

男1 セヤからわたしの顔ですよ。

女2 なんも言うてないやないですか……

男1 はつきり言うてください。

女1 そんなん、どっちもどっちですよ。

男2 はい……？

女1 どっちもたいした顔やないやないですか。

男1 そんなはつきり……

女1 はつきり言えつて言いましたでしょう。
男1 (女2に) あなたも……？
女2 ええ……
男1 そうですか……どっちもですか……
男2 そんな……
女1 あの、ガス……
男2 え？
女1 ガスはあるんですか？
男2 ああ……(再開して) いえね、さつきから探してるんですが、
(と、マッチ箱を取り出し) こんなしなくて……
女1 マッチですか……
男2 ええ……
女1 それではちよつと……
男2 なんやガスの代わりにはなりませんかね？
女1 なりませんよ……
男2 ですよね……
女2 煙草がやればええんやから、このマッチでもええやないで
すか……？
男2 え？(男1に) 煙草いいんですか？
男1 なにが？
男2 いえ、ここで吸ってもいいんですか？
男1 それはわかりません……
女1 自分で言いましたんですよ……吸うたらあかんって……
男2 そうなんですか？
女1 ええ、この人が言うたんですよ、それやのに……
男2 (男1に) ここはあなたの場所なんですか……？
男1 はい？
男2 いや、それやとしたらわたしら勝手に……
男1 そんなんやありませんよ……ましてや、わたしみたいない
した顔でもない人間が、自分の場所を持つやなんて……

女1 まだ言うてるんですか……
男1 だって、(男2を指し) わたしはこの人とたいして変わらんよ
うな顔なんでしょう？そんなわたしが……
男2 ちよつと待ってくださいよ。
男1 なんですか……？
男2 あなたこそわたしの顔をなんやと思うてるんですか？
男1 なんにも思うてませんよ……
男2 思うてるでしょう……はつきり言いなさいな……
男1 思うてませんよ、わたしはわたしの顔のことを思うてるんで
すから……
男2 せやけど、さつきからね……
女1 あの、マッチ……
男2 はい……？
女1 せやから、マッチ……
男2 ああ……いや、それが……
女1 ちよつとでいいんです……
男2 いや、これを貸すんは全然かまわんですが……
女1 それやったら……
男2 それがその、ないんです……
女1 ない？
男2 その、中身が……
女1 中身？
男2 そう……それがなくて……
女2 箱しかないんですか？
男2 ええ……
女1 あなた、なにをしてるんですか……
男2 まったくです……
男1 (女1に) あなた、持ってたやないですか……
女1 はい？
男1 ほら、最初に……

女1 ああ……そうですね、ありますよ。
 男2 そうなんですか？
 男1 ええ、あるんです。
 女1 あら……？
 男1 はい？
 女1 私、あれどこにやりましたっけ……？
 男1 あれとは……？
 女1 あれですよ、せやから、煙草をつける……
 女2 ライターならここに……
 女1 それやなくて……マツチの……
 男2 マツチならここに……
 女1 せやから、そうやなくて……煙草をつける……
 女2 ライター……
 女1 やなくて……
 男2 ほら、マツチや。
 女1 あなたは少し黙っててください。
 男2 そんな……
 男1 なくしたんですか……？
 女1 いえ、あるはずなんですけどね……
 男1 そうですよ……
 女2 そうなんですか……？
 女1 そうなんですよ……
 男2 ないんですか……？
 女1 いいですから……
 女2 あるんですか……？
 女1 あるんです……（ない）

沈黙。
 下手から女3が現れる。パンツスーツ。気の強そうなキャリア
 ウーマン風。

女3は煙草と化粧ポーチを取り出す。4人はことさらに女3に
 注目をしている。

女3 （気後れすることもなく）なんですか？
 男1 いえ、別になにというわけやないんですが……
 女3 言いたいことがあるならはつきりと言いなさいな。
 男2 なに、どうしたんです？
 女3 私は悪いと思いませんよ。
 女1 なにがです？
 女3 知りませんよ……私は、今ここにやって来たばかりなんです
 から……
 女1 せやけど、私は悪くないって……
 男1 ええ、なんですか、それは……？
 女3 なんですかって、なんですか？
 男1 いや、せやから、私が悪いとかなんとか……
 女3 （カツとなつて）だから悪くないんです。
 男2 彼はそんなつもりで言うたんやないですよ。
 女2 そうですよ……まるで私らがなにか責めてるかのよう……
 女3 責めてるやないですか……
 女2 責めてませんよ……
 男1 そうですよ、わたしらはそんなやないんですから……
 女1 ええ……もつとも、あなたになにも悪いところがあればの
 話ですけどね……
 女3 私のどこが悪いって言うんですか？
 女1 なければいいんですよ。
 女3 よくありませんよ。
 男2 彼女はそんなつもりで言うたんやないですよ。
 男1 そうですよ、もしなにかあればという話なんですから……
 女2 私らは別にあなたを責めるつもりはないんですから……
 女3 さつきから責めてるやないですか。

女2 はい……？
女3 4人でよってたかって……
男1 ちよつと待っててください、よってたかってつて、あなた、それは違いますよ……
女2 ええ、おおいに勘違いなさってますよ……
男2 そうですよ、勘違いです、わたしらは違うんですから……
女3 ほら、それが責めてるっていうんですよ……
男1 これは違うでしょう……
女2 これは違いますよ……
男2 ええ、全然違いますよ……
女3 では、いったいなんなんですか？
男1 なんなのかと言われましても……
男2 なんなんでしょうね……？
女1 (女3に) やつぱり、なにか悪いところがあるんやないですか？
女3 はい……？
女1 いやないと私らも責めたりしないでしょ。
男1 あなた、責めてるんですか……？
女1 私やなくて、私らがでしょう…… (女3に) そうですよ？
女3 ええ……
男1 わたしはなにを責めてるんですか……？
女3 いやから、私はそれが知りたいんですよ……
男2 そう言われましてもねえ……
女2 ええ……
女1 とにかく謝りはつたらどうですか？
女3 はい？
女1 どういったことがあるにせよ、とりあえず一度謝っていただいて……そうしたら私らもね……
男1 まあ……そうですね……
男2 ええ……

女3 なんてですか……私はここにやって来たばかりで、それがなんでいきなり謝らないといけないんですか……
女1 いやから、それはあなたが責められているからでしょう。
女3 それはあなたが責めるからでしょう……
男2 いやから、それはあなたが責められているからであつて……
女3 私はなにもしていません。
男1 わたしはなにもない人を責めたりはしませんよ……
女3 なにもない人を責めてるやないですか。
男2 だからそれは、もしあなたが責められているなら、それはあなたになにかしら問題があつたということですよ…… (女3に) とりあえずね……？
女3 もうけっこうです……私がでていきますから…… (と、扉に手をかけるがあかない) あれ……？
男1 まあ、そう言わずにね……どうかしたんですか……？
女3 扉があかないんです……
男2 扉が？
女3 やめてください。
男2 なにが……？
女3 扉をあけてください。
女2 ええ、どうぞ……
女3 (半ば狂乱的に) 私を閉じ込めてどうするつもりですか。
男1 閉じ込めるやなんてあなた、そんなことするわけがないやないですか……
女2 そうですね、そんなことをしてなになるんですか……
女3 知りませんよ…… (絶望) なんです、さつきから、私がないをしたっていうんです……
男1 それはまだわかりませんよ……
男2 ええ……わからないから、とりあえずね……
女3 (強く) いやから、私がないをしたっていうんです？

男1 なにをしたんでしようね……？
 男2 ええ……それさえわかれば謝ってもらえるのに……
 女2 なにをしたか……
 女1 なにをしたかわからないなら、なにをしなかったのかを考えたらええんですよ。
 男1 ああ、さっきの……
 男2 さっき？なんの話です？
 女2 論理的にですよ。
 男2 論理的に……？
 女3 私がなにをしなかったか……？
 男1 そうです……あなたがわたし達になにをしなかったのか……
 女3 (考えて) せやから、なにもしませんよ……
 女1 なぜです？
 女3 なぜ……？
 女1 なぜなにもしなかったんです？
 女3 それは……
 男2 それがあなたの責められた原因ですか？
 女3 そうなんですか……？
 女1 そうですね……なぜ、あなたはなにもしなかったのか……
 男1 なぜなんです？なぜにあなたはなにもしなかったんです？
 女3 そんな……(男1に) じゃあ、あなたはなにをしたんですか？
 男1 わたし……？
 女2 そういえば……(男1に) なにをしたんです……？
 男1 なにを……？
 男2 (男1に) なにもしてないんじゃないですか？
 男1 いや、しましたよ。
 女1 なにを……？
 男1 なにを……？なにを……？なにを……？
 女3 (男1に) あなたもやないですか……？
 男1 わたしも……？

女1 (男1に) あなたもです。
 男1 わたしも……？わたしがなにをしたって言うんです……？
 男2 (男1に) せやから、あなたはなにもしなかったんじゃないんですか？
 女2 それがすべての原因ですか？
 男1 すべてってなんですか……？
 女3 すべてはすべてでしょう……
 女1 すべての罪ですよ。
 男1 すべての罪……？
 女1 あなたはすべての罪の証拠なんでしょう？
 男1 いや、そんな……
 女3 そうなんですか？
 女1 ええ……
 女3 すべてって、殺人とか強姦とか下着泥棒とか……？
 女1 ええ……
 男1 してませんよ。
 女2 でも、盗人……
 男1 それは……
 男2 この人は盗人なんですか？
 女2 ええ……
 男2 あらま……
 男1 いや、だから、それは……
 女3 ひき逃げとか……？
 女1 やりました。
 男1 ちよっと待ってくださいよ。
 男2 待つのはあなたでしょう。
 男1 わたし？
 女2 ひいて逃げるやなんて……
 男1 (強く) 逃げてませんよ。
 男2 では待つんですか？

男1 ええ、待ちます。
女1 なにを？
男1 なにを……そりゃあ、ひいたあれを……
男2 それはひかれたんやから、そこにあるんやないですか？
男1 そことは……？
男2 せやから、ひいたそこにですよ。
男1 それもそうですね……
女1 じゃあ、なにを待ってるんです？
男1 いや、別ににも待ってませんけど……
女2 ひき逃げ……
男1 (強く) それは待ちます。
女1 なにを？
男1 せやから……ひき逃げって、なにを待つんです……？
男2 あなた、自分のことでしょう……
男1 そうですけど……
女3 そうですよ、あなた、そんななんでも人に聞いてちゃ仕方がないでしょう。
男1 じゃあ、誰に聞くんです……？
女3 せやから、人やなくてね……
男1 では、この辺に猫はいませんか？
女2 (驚いて) 猫？
男1 ええ……
男2 猫って、あなた、もつとマシなんがいてるでしょうに……
男1 猫よりマシってなんですか……？
女3 またそうやって……
男1 いや、しかし……
男2 もつと、こう、立派なね……
男1 じゃあ、この辺に象はいてませんか？
女2 (先ほどより驚いて) 象？
女3 大きけりやいっててもないでしょうに……

男1 大は小をなんとかかっていうでしょう……
男2 しかし、象はお家で飼えませんか？
男1 それがなんですか？
男2 猫をお家で飼う人はいてるでしょう？という事は、象より猫のほうがええんやないですか？
女2 確かにそうですね……象なんかお家で飼ったら、あつという間にお家が壊されてしまいますよ。
男1 象はお家を壊すんですか？
女3 そりゃあ、壊すでしょう……あれだけ大きいんやから……
男1 でも象はあれだけ優しい目をしているんですよ……？
女1 象は優しいんやなくて悲しいんです……象の目は悲しいんです……
男1 そんな……だから壊すって言うんですか……？
女3 象は優しいとか悲しいとか、そんなんやなくて、ただ、壊すんですよ。
男1 なぜ……？
女3 大きいから……
男1 大きいから……そんなんが理由になりますか……？
女3 理由なんかありませんよ……象とはそういう生き物なんですから……
女2 おそろしい……(男1に) あなたはなんだって象なんか探してはるんですか……？
男2 壊したいんですか？
男1 なにを……？
男2 またそうやって……自分のことでしょうに……
男1 わたしはただ……ほんの少し一服を……
女2 あなたは、まだ……
男1 いや、その……
男2 (ふと) 一服といえは……ところでマッチはどうなったんでしたっけ……？

女1 そういえば……(と、探す)
 男2 (女3に) あなた、なにかもってはいりませんか……?
 女3 なんです、今度は……
 男2 いえね、なにかお借りできればと思ひましてね……
 女3 なにをです……?
 男2 それがさつきからずいぶん困ってるんです……(煙草を示し)
 女3 ああ……貸すのはかまいませんけど、ちゃんと返してください
 いね。
 男2 はい……?
 女3 せやから、それを貸したら、ちゃんと返してくれるんですね?
 男2 そりゃあ、お借りしたら、ちゃんと返しますよ……
 男1 でもわたしら、それがありませんよ……
 男2 え……?
 男1 返そうにも、わたしらには返すそれがありませんよ……
 男2 あら……
 女1 (探している) 確かにあったんよ……
 女2 なを探してはるの?
 女1 せやから、煙草をつける……
 女2 ライターならここに……
 女1 それやなくて……マッチの……
 男2 マッチならここに……
 女1 あなたは黙って……
 男2 なんて……
 女3 ちょっと、どうやって返してくれるんですか?
 女1 待つてください……今、探してるんやから……
 女2 ガスさえあつたら(ライターを手に取り) これで返せるんで
 すけどね……
 男1 (女3に) あなた、ガスは持ってませんか……?
 女3 なんです、ガスは……?

男1 せやから、あのライターにいますね……
 男2 それを借りたらまた返せて言われますよ……
 女3 なんです、その言い草は。
 男2 いえ、別に……
 女3 当たり前でしょう、貸したもんは返してもらわんと、私かて
 ボランテアでやつてるわけやないんですから。
 男1 そりゃあ、そうですよ。
 男2 せやけど、それくらい貸してくれたかて……
 女3 せやから、貸すのはかまわんけど、それをきちんとね……
 女2 ガスさえあつたら返せるんですよ、ガスさえね……
 男1 ええ、それさえあれば……誰か持つてきてくれはりませんか
 ね……
 女3 あなたはまたそうやつて……
 男1 いや、これは違うんですよ……
 女3 なにが違うんです?
 男1 いや、だから、ガスを誰かがね……いや、違うんですよ……
 女1 いったい、あなたはさつきからなにを待つてるんです?
 男1 なにを……せやから、ほら、わたしらをなにか、あれし
 てくれるような……
 女3 また……
 男1 いや、違うんです……
 女2 象でしょう?
 男1 象?
 女2 ええ……さつきそう言うてはったでしょう……?
 男1 象……
 男2 言うてましたね。
 男1 象を……?
 女3 象……それが私らを……?
 女1 (扉の外を見て) 来ました……
 男1 え?

女2 大きな象……

下手から女4が現れる。旅館にあるようなお茶の一式やお湯のはいったポットや茶菓子を象のように大きなワゴンに乗せて、ゆつくりと……

女4 すみません、すっかりお待たせしてしまって……

男1 (反射的に) ああ、いや……

女4 いえね、茶菓子を切らしてまして、慌てて買いに行ってたんですよ……こんなにこられるとは思ってませんでしたから……

男1 ああ、すみません……

女4 (お茶の用意をしながら) それにしても、今日はええ日……

男2 (男1に) お知り合い……?

男1 いえ……

女4 あ、どうぞ、お気になさらず、自分の家や思うてくつろいでくださいね……今、お茶をいれますから……

男1 ああ、どうも……

女4 どうぞおかけになって……あら、椅子足りませんか……?

男1 え?

女4 せやから、椅子……

男1 ああ、お気になさらず……

男2 やっぱ知り合いやないんですか……?

男1 いえ……

女1 (女3に) あなたは?

女3 知りませんよ…… (女2に) あなたやないんですか……?

女2 私ですか……?

女3 そうでしょう……

女2 いや、でも私も知りませんよ……

男2 誰の知り合いでもないお知り合いなんていないでしょうに。

女2 せやけど……

女1 挨拶くらいきちんとしてかんと失礼よ。

女2 そうですか……

女4 はい、おまたせしました…… (と、お茶をそれぞれに渡しながら) 茶菓子もどうぞおやりになってくださいね、急やったから、

あんまりええもんじゃないんですけど、駅前、知ってはります？ 来る途中にありましたでしょう、古い建物、和菓子のお店なんですよ、あそこも古くてね、こら辺やとあそこしかないんです、

いつもやったら、隣町にデパートがあるから、そこで買っておくんですけどね、でもこのお店も古いだけあって、味はけっこうな

んですよ、そりゃあ、デパートのと比べたら少し見た目はあれですけど、でも悪くはないんです…… (お茶を配り終えて) どうぞ

お召し上がりになって……

男1 どうも……

女1 (女2に) いただいているの？

女2 私に聞かれても……

女3 あなたのお知り合いでしょう。

女2 それが、やっぱ知らないんですけど……

女1 じゃあ、知らないお知り合いね。

女2 知らないお知り合い……?

男2 (女2に) いいんですか、いただいて？

女2 え？ええ……

男2 じゃあ……

男1 ええ……

それぞれにお茶をいただいて……

女4 茶菓子もどうぞ、おやりになって……

男1 ああ、どうも……

しかし、なんとなく誰も手をださない……

女4 やっぱりデパートのがよかったかしら……ちよつと時間がかかりますけど、今からちよつと行つてきましようか……？

男1 いやいや、そんな、ねえ……

男2 ええ、そんな申し訳ないですから……

女4 このもけして悪くはないんです……

女2 あの……

女4 はい……？

女2 いや、どうも、ご無沙汰しております……

女4 はあ……

女2 あの、せやから、その……(女1に) 挨拶ってなんです

か……？

女1 あなた、挨拶も知らないの？

女2 知ってますよ……

女3 なら早くしなさいな。

女2 こういったときはどういう挨拶をしたらええんか……

女1 どういうときよ……

女2 せやから、知らないお知り合いにあつたとき……

女3 なんでもええんよ……挨拶なんて……

女1 そうよ……お天気のこととか、近頃めつきり寒くなりました

ねえとか、それらしいことを話せばええんよ……

男1 さつきからなにをめてはるんですか……？

男2 なに、ここはひとつわたしが……

女1 大丈夫です、もう解決しましたから……(女2に) ほら、早

く……

女2 (女4に) 近頃めつきり寒くなりましたね……

女4 あら……ごめんなさい……

女2 え……？

女4 私ったら気づきませんで……すぐになにか暖めるものをお持ち

ちしますの……

女2 あ、いや、そんなあれやないんですよ……

女4 え？

女2 せやから、これはその、ほんのあれでして……

女4 寒くは……？

女2 ないんです……

男1 なんてそんな嘘をつくんですか……？

女2 だってそう言えって言われて……

女1 嘘をつけやなんて言いやしませんよ……

女3 そうですよ、人聞きの悪い……

男2 じゃあ、なんで嘘なんてついたんです？

女4 私は別にかまわないですよ……

女1 そういう問題やありませんから……

女3 そうです……問題は、なぜ、嘘をついたのかです。

女2 なぜって……

男1 まあ、そういうこともありますよ……つい出来心でね……

男2 あなたもですか？

男1 いや、わたしは嘘なんかつきませんけどね。

男2 でもそういうこともあるって……

男1 いや、それは……

女1 言いました。嘘やないですか。

男1 わたしは嘘なんかつきませんよ。

女3 本当に？あなたにはつい出来心ってことはないんですか？

男1 そりゃあ、あなた、ときにはなにかのはずみでそんなことも

あるかもしれませんけど……

女1 あなた、嘘なんかつかないって言うたやありませんか。

男2 なに、それも嘘なんですか？

男1 ちよつと、それもってなんですか……そんな、わたしが嘘ば

かりついでるみたいな……

女3 (男1を指し) この人は嘘ばかりついてるんですか？

女2 え？ええ……
 男1 ちよつと……
 女4 私、茶菓子を買ってきますね。
 男1 いや、それはいいんですよ。
 女4 せやけど……
 男1 今はわたしが嘘つきやないってことをね……
 女1 またそんな嘘を……
 男1 いや、だつてこれは……
 男2 なに、なんで嘘をつくんです？
 男1 嘘なんかやありませんよ、わたしは本当のことをね……
 女3 これも嘘なんですか？
 女1 ええ。
 男1 わたしは嘘なんかつきません。
 男2 ほら、また。
 女3 いやだ……
 男1 ちよつと待ってくださいよ……
 女1 待ってるのはあなたでしょう。
 男1 いや、そうやなくて……
 女3 まさか、それも嘘やったんですか……？
 男1 え……？
 女2 そんな……象を待ってるっていうのも……？
 男1 違いますよ。
 男2 あなた、それはひどいですよ……
 男1 待ってます、わたしは象を待ってます。
 女4 なんですか？象って……？
 女1 (男1を指し) この人が待ってるんです。
 女4 象を？(驚いて) でも象なんか来たら、この部屋が壊れてしまします……
 女1 それが目的みたいです。
 男1 違いますよ。

女3 じゃあ、なんで象なんか待ってるんです？
 男1 せやから、それは……知りません……
 男2 なんですか、それ……
 男1 わたしが聞きたいですよ……なんでわたしが象を待っているのか……
 女4 やっぱ壊したいのですか……？この部屋を……
 男1 (諦めて) あるいはそうなのかもしれません……
 女4 それは困りましたね……
 女2 (ふと、気がついて) あ、ガス……
 女4 はい？
 女2 いえ、ガスありませんかね……？
 男1 あなた、今はそんな話やなくてね……
 女4 がす……？
 女2 ええ……
 男1 ちよつと、とにかく今はわたしが嘘つきやないってことを皆さんにね……
 男2 あなた、またそんなあれを……
 男1 いや、だからこれはそうやなくて……
 女3 いやだ、また……
 男1 (ほとんど泣きそうに) またやなくて……
 女4 すみません、がすっていうのはどういったお菓子ですかね？
 女2 あ、いや、お菓子やなくて……
 女4 お菓子やないお菓子ですか……？
 男2 それはおかしいですね。
 女1 あなたは黙ってなさい。
 男2 そんな……
 女4 なぞなぞかしら……？
 女2 いや、せやからお菓子やなくて……
 女4 待ってくださいね……今、考えますから……
 男1 先にわたしのことを考えてくださいよ……

女1 あなたは象を待つてなさい。
 男1 せやから、わたしは……象……（もう言葉がない）
 女4 待つてください、今、考えてますから……
 女2 いや、考えなくていいんです……
 女4 なるほど、考えれば考えるほどわからなくなる、ひっかけ問題ですね……？
 女2 問題やなくて……このライターにいれるガスを探してまし
 て……
 女4 がす……？
 女2 ええ、ガスです……
 女4 ああ、ガス……え？ではなぜなぞは……？
 女2 ありません……
 女4 （残念）そうですか……
 女1 （女2に）だしてあげなさいよ……
 女2 なにをですか……？
 女1 せやから、なぜなぞ……
 女3 そうよ、こんなに残念そうにしてはるのに……
 女4 私はいいんですよ……
 男2 だしてあげてくださいよ……
 女2 そんな、急に言われても……
 女1 あなたが先に言うたんでしょ……
 女4 私はいいですから……
 女3 ほら、早く……
 女2 だから急に言われても……
 男2 なんでも言うたらええんですよ。
 女2 じゃあ……パンはパンでも食べられないパンはなーんだ……
 女1 食べられないパンはパンやないでしょう……
 女2 いや、せやから……
 男2 確かに、パンは食べ物ですからね。
 女3 食べられないパンなんてパンやないでしょう……

女2 せやから、なぜなぞですから……
 女1 なぜなぞやからいうて、なんでも言うてええもんでもないでしょうに……
 女2 そんな……
 女4 （ひどく快活に）わかりました。
 女2 え？
 女4 答えはジャパンです。
 女2 ジャパン……？なんですか、それは？
 女4 日本という意味です。
 女2 それはわかりますよ……
 女4 ここは日本です……それが答えでしょう？
 女2 いや、そうやなくて……
 男1 なにの答えです？
 男2 せやから、なぜなぞですよ。
 男1 ああ……日本ってパンなんですか？
 男2 はい？
 男1 だって、パンはパンでも食べられないパンは……日本？
 男2 あれ……？
 女4 違うんですか？
 男1 だって、日本はパンやないんやないですか……？
 男2 ええ……
 女1 それに日本は食べられますしね。
 男1 はい？
 女1 だってシヨクミンチっていうやないですか。
 女3 あなた、それは違うでしょう……
 女1 なにが？
 男1 日本はシヨクミンチやありませんよ。
 女3 そうやなくて、シヨクミンチは、なんや、食べれるミンチと
 男2 かそういうあれやありませんから……
 男2 では、どんなミンチなんですか？

女3 ミンチやなくて……
女2 フライパンなんです……
男2 フライパン？
女2 答えはフライパンなんです……
男1 パンの話やないんですか……？
女2 ごめんなさい……
女1 確かにフライパンは食べられへんけど……食べれるようにするものですしね……
男2 なにを？
女1 セヤからミンチを……
男2 (驚いて) 日本を？
女1 ええ……こんがりと焼くんですよ……
男1 そんな、なんのために？
女1 なのため……(男1に) あなたのせいでしょう……
男1 わたしの……？
女1 あなたがなにもしなかったから……
女3 そういえば……
男2 そうでしたね……
男1 わたしがなにもしなかったから……？だから日本がこんがり焼けるって言うんですか……？
女1 そうです。
男1 なんてそんなことに……？
女3 あなたはまたそうやって……
男1 すみません……
女4 ガスをお持ちいただけますね……(と、去ろうとする)
女2 え？あ、いや、そこまでしてもらうんは……
女4 答えは出ましたから……それに、それが私の役割です……(と、上手から去る)
女3 行ってしまいましたね……
女2 ええ……

男2 えらいサービスのいいところですね……こんな初めてですよ……
女1 でもこれでガスを持ってきてもらえるみたいやから……
男1 そうですね、とりあえず……あれ……？
男2 今度は何んですか……？
男1 いえ、灰皿……？
女1 灰皿……？
男1 ええ……ありませんよね……？
女2 そういえば……
女3 おかしいですね……
男2 さっきの人に持ってきてもらいましょうか？
女3 そうですね、今やと間に合うでしょうし……
男2 どれ、さつそく……(と、扉をあげようとするが)あれ……？
男1 どうしたんですか？
女1 早くしないと戻ってきてしまいますよ……
男2 いえ、扉があかないんですよ……
女2 そんな、さっきあの人が出ていったばかりですよ？
女3 そういえば私のときも……
男1 たてつけが悪いんですかね……？(と、扉をあげようとして) あら、ほんとに……
女2 でもさっきの人はすぐにあけてましたよ……
女1 なんやコツがあるんやないですかね……？(と、やってみる) なんかね……
男1 まあ、すぐに戻ってきてくれはるんやないですかね……？
男2 しかし、灰皿が……
男1 ああ……
女3 いいんやないですか？灰皿くらい。
女1 だめでしょう……
男2 そうですよ……
女3 灰皿がないってことは、なくても吸ってええってことやない

の。

男1 それが、実は煙草を吸っていいかわからんですよ……

女3 どうして……？

男1 それがさっぱりわからんですが……

女3 どこかにそんなことが書いてあるんですか？

男1 書いてません……

女1 (男1を指し) この人が言いましたんです。

女2 そうなんです。吸ってはいけないうって……

女3 (男1に) どうして……？

男1 それがわたしにもさっぱりわからんです……

女3 この人はなにを言うてるんですか……？

女1 私らにはさっぱり……

男1 せやから、どうやらわたしがここでは煙草を吸うたらあかん

って言うたらしいんですけど、それがなぜかはわたしにもさっぱ

りわからんですよ……

女3 なにを言うてるんですか……？

男2 まあ、でもそれがそうなんですから……

女2 確かに煙草を吸ってよいとも書いてませんしね……

女3 じゃあ、いったいなにをしにここに来たんです？

男1 そりゃあ、ここが喫煙所やから……

女3 喫煙所やから？

男1 煙草をやるう思うて……

女3 喫煙所やから煙草をやるうと思うたんですか？

男1 だって煙草をやるために拵えたんやないんですか？喫煙所な

んてものは……

女3 あなたはここが喫煙所やから煙草をやるうと思うたんです

ね？煙草がやりたいから、ここに来たんやなくて。

男1 あなたはややこしい人ですね……

女3 私は物事をきちんとしていただけですよ。煙草をやるからここ

に来たんやなくて、ここが喫煙所やから煙草をやるうとしたんで

すね？

男1 それはそうですけど……

女3 じゃあ、そもそも、なぜここに来たんです？

男1 それは……

女3 それは？

沈黙。

男2 なんやあれですけど、とにかくこいつをあけんことには……

(と、扉をあけようとする)

女1 あれやないですか？押すんやなくて引くとか……

男2 押しても引いてもですよ……

女2 じゃあ、実は横やったりとか……

女1 ああ、よくありますね……

男2 そんなコントやないんですから……(と、試しにやってみる

があかない) ほら……

男1 あれやないですか？裏をかいと上とか……

女1 なんの裏ですか？

男1 せやから、横の裏ですよ……

女3 なんです？横の裏で……

男1 なんてしようね……

男2 上……(やってみる、あかない)

女2 その裏をかいと下？

女1 上の裏は下なの……？

女3 いや、上の下が下やから、上の裏は……

下……(あかない)

男1 そもそも、入ってくるときはどうしましたっけ……？

男2 それは普通にこう……(あかない) うん……

女1 普通に入ったんやから、普通に出られるはずなんやけどね。

男1 せやから、ちよっと考えすぎてややこしいことをし過ぎたん

やないですかね……？一回、普通にしてみたらどうです……？

女2 そうですね……

男2 普通に……普通、扉ってどうやってあけますっけ……？

女3 あなたはなにを言うてるんですか……？

男2 なんかいりるやり過ぎて、普通ってどんなんやったか……

女4が下手の扉からはいってくる。

手には大きなガスボンベ。

女4 すみません、お待たせして……どうかされましたか……？

男1 あ、いや……なんですかそれ……？

女4 ガスですけど……？

女2 ガスですね……

男2 あの……？

女4 はい……？

男2 いえね、この扉があかなくて……たてつけですかね……？

女4 扉？

女3 この扉ですよ……（あけようとして）ほらね……

女4 ああ、大丈夫です。

男2 そうなんですか？

女4 ええ、もともとそういう作りですから……それよりガスはど

ちらに……？

女1 ガスってこういうのでよかったの？

女2 いや……

男1 これはちよつと違いますよね……

女4 え？これってガスやないんですか……？

女3 ガスはガスでしょうけどね……

女2 ええ……

男1 でもせつかく持ってきてくれはったんやし……

女1 せやけど、これではね……

女2 ちよつとやってみます……（と、ガスボンベを調べる）

女3 なにをどうやって……

女1 危ないわよ……

男2 （しばらく扉と格闘していたようだ）やっぱり大丈夫やないんやないですかね……？

女4 はい……？

男2 あかんとまずいでしょ……？

女4 あかんからええんですよ。

男2 ああ……なるほど……

女1 （女2に）ちよつと、あなた、危ないわよ……

女3 （女4に）どういことよ……？

女4 だってあいたら困りますから。

男1 扉はあかないと困りませんか……？

女4 私はあけられますから……

男2 じゃあ、やっぱり特殊なあけ方があるんですね。

女4 特殊なあけ方？

男2 裏の裏をかいたような……

女3 表やないですか……

女4 そんなことはありませんよ……（と、扉を普通にあける）ほ

ら……（閉める）

男2 あれ……？

男1 あくやないですか……

女3 なにをしてみたんですか……（と、扉をあけようとするが）あれ……？（あかない）

女4 とこでガスはどうされるんですか？

女2 ええ、なんとかしてみます。

女1 だから危ないわよ……

女3 （女4に）どうしてあなたはあけられるの？

女4 だって、私があけられないと、皆さまにご奉仕ができませんでしょう？

男1 ご奉仕？
 女4 ええ……
 男1 なんですかそれは……？
 女4 私の役割です。
 男1 ああ……役割ね……
 女4 ええ……せやから、私しかあけられないんですよ。
 女3 どういうこと……？
 女4 だって、皆さまがあけてしまったら、ご奉仕ができないやないですか……
 男1 ああ……確かに……
 女3 どうして……？
 男1 いや、それは……（女4に） どうしてですか……？
 女4 扉があいたらどうされますか？
 女3 そりゃあ、出ていきますよ……
 女4 それではご奉仕が出来ませんでしょう……？
 男1 なるほど……（女3に） そういうことですよ……
 女3 なぜご奉仕をするの？
 男1 そりゃあ、あなた……（女4に） なぜです……？
 女4 せやから、それが私の役割なんです。
 男1 （女4に） この人の役割なんですよ。
 女3 （苛立って） せやから、役割ってなに？
 男1 ちよつと落ち着いて……
 男2 とここで、どうしたらこの扉はあくんですかね？
 男1 せやから、それはこの方しかあけられないんですよ……
 男2 どうして……？
 男1 だから、それは……（女4に） どうしてですかね……？
 女4 そういう作りですから……
 男1 （男2に） そういう作りなんです。
 男2 せやから、それはどういった仕掛けで……？
 男1 だから、それはですね……（女4に） どういった仕掛けなん

です……？
 女4 仕掛けなんかありません……入るときは容易く、出るには困難を極める……それは逆にいえば、つまり、この部屋の外から見れば、出るのは容易く、入るのは困難……それだけのことでさら……
 男1 （男2に） だそうです……
 男2 しかし、わたしはただ、煙草がやりたくて……
 女4 どうぞ、お好きにやってください……
 男1 それはそうしたいのですが……それが出来なくてずっと探してたんですよ……
 女4 なにをですか……？
 男1 せやから、（煙草を示し） これの……
 女4 火種？
 男1 そう……火種を……
 女3 ちよつと……象やないんですか？あなたが探していたのは。
 男1 いや、それは……
 女1 象を待つてはるんでしょう？やっぱりそれも嘘やったんですか……？
 男1 （焦って） 違います、象です、象を待つてます……
 男2 火種を探しながら、象を待つてはるんですか？
 男1 そうやなくて……火種を探してたら……象を待つことになるんです……
 男2 なんです……？
 男1 だから、火種が象を呼ぶんですよ……
 男2 火種が象を……？せやけど、象なんかを呼んでしまつて大丈夫なんですかね……？
 女4 大丈夫やありません……けれど、それが皆さまのお望みならば……
 男2 いいんですか……？
 女4 外にはこの部屋以外に、あと195の部屋がありまから……

ひとつくらいなら……

男1 195?

女3 なののためにそんなにあるんよ……

女4 歴史です。

女3 レキシ?

女4 歴史がそれを作ったんです。

男2 なんです、レキシって……?

女1 列車とか車に踏み潰されて死ぬことですよ。

女3 轢死……

男1 なんておそろしい……

男2 ひき逃げ……

男1 ちよっと……それもわたしのせいやって言うんですか……?

女3 そうなりますね。

男1 なりませんよ……わたしはただ、煙草を……

女1 あなたは、まだ……

男1 (懇願) だって、ただ、煙草を……

女4 歴史ってそういう意味なんですか……?

女1 あなた、知らずに言うてたんですか……?

女4 ええ……

女3 人の轢死が196もの部屋を作ったの……?

男1 (ふと) 轢死……それはまさか、象……象が踏み潰したんで

すか……?

女4 そうなのかもしれません……

女3 おそろしい……(男1に) なんだってそんなことをするんで

す……?

男1 わたしに聞かないくださいよ……

男2 そうすると……あなたはその他の部屋のご奉仕とやらもする

んですか?

女4 当然です。

男2 なぜ……?

女4 せやから、それが私の役割ですから。

女3 またそれ……とにかく、早くここをあけてください。

男2 そうですね……

女4 どうして……?

女3 (怒って) どうしてって……こんなおそろしいところにいつ

までもいられますか。

女4 しかし、あなた方は入ってきたのです……

女3 そんなおそろしいところやと知らなかったんです。

女4 誰も知りません。そこがどれだけおそろしい場所か……誰も

知らないんです……

女3 あなたも私が悪いって言うの?

女4 そんなこと言うてやしません……それはどうしようもないこ

となんです……

男2 まあ、とりあえず、一度お開きにしましょうよ……ずいぶん

時間も経ってしまいましたし、また折をみて集まるということに

して……

男1 なんですか、オリを見て……まるで動物園かなにかみた

いに……

女1 動物園……?

男2 そうやなくて、また皆さんの都合の良いときにあらためて集

まりましょうって……

女4 それは無理です……

女3 なにが無理なんです?

女4 せやから、さつきから言うてるように、私の役割は皆さまに

ご奉仕することですから……

男1 それはいつまで……?

女4 いつまで……?

男1 ええ……

女4 いつまでもです……それが私の役割なんですから……

男2 それは他の部屋もですか?

女4 ええ……

男2 他の部屋はいつたいなにをしているんです……？

女4 それぞれです……それぞれの部屋で、思い思いに、それぞれの火種を探しているんです……

男1 それぞれの火種……？

女4 そうです……

男1 わたしはただ、(煙草を示し)これがやりたくて……

男2 そうですよ……(と、煙草を取り出す)

女3 (同じく取り出して)それだけよ……

女1 (同じく取り出して)そう、最初はそれだけやったはずなんです……

女4 ご安心を……もうすぐですから……

男1 なにがです……？

女4 聞こえますでしょう……？もうすぐ大きな、それは大きな象が、ここへやってきます……

男1 象……？

女3 大変やないですか……

男2 ここに来るんですか……？

女4 きつと、もうすぐですよ……

男2 それはなんや、楽しそうですね。

女3 なにが……？

男2 いや、象なんてなかなか近くで見れませんよ。

女1 まあ、動物園なんかやと柵のずっと向こうですしね。

男1 そうですね……なんや触ったり出来るんですかね……？

男2 そりゃあ、背中に乗ったりなんかして……

男1 (嬉々として)背中に……？

女3 象になんか乗ってどうするんです……？

男1 餌をあげるんですよ、象はね、こう、鼻を使って器用に食べるんですよ、わたしは知ってるんですよ……きつとなついてくれませんよ……それに乗って、街を歩くんですよ……

女1 そんなんに乗って街を歩いたら、それこそえらいことになり
ますよ……

男2 そうですよ……なにを考えてるんですか……

男1 いや、わたしはただ、象がやってくるなら……

女3 やっぱ大変やない……

男2 大変ですよ……とにかく出る方法を考えましょうか……

女1 簡単です。

男2 そうなんですか……？

女1 (女4を指し)この人は私らにご奉仕とやらをするために出入りをするんでしょう？その隙に私らも出ればええやないですか。

男2 なるほど……

女3 盲点でしたね……

女4 (慌てて)そんな、困ります……

女3 困ってるんは私らのほうよ。

女4 では、私はもうここを出ません……

男2 え？

女4 もう二度とこの部屋からは出ません。

女1 でもそれやとご奉仕が出来ないやないですか？

女3 そうよ……他の部屋であなたを呼んでるかもしれせんよ？

女4 それはそうですか……

男1 (女2に)さっきからなにをしてはるんです……？

女2 はい？

男1 なにをこそそしてるんです？

女2 せやからガスをね……

女1 あなたまだそれ……

女2 だってもうすぐガスが……

女3 とにかく今はここを出るのが先決よ……

女2 なぜですか……？

女3 もうすぐここに象がやってくるからよ……

女2 象……？(男1に)あなたはそれを待ってたんやないんです

か……？

男1 ええ……それはそうなんです……

女2 もうすぐ、ガスがでます……

男2 それどころやないんですよ、とにかく早く出ないと……

男1 そうですよ……

女4 出てなにをするんですか？

男1 はい？

女4 なにかしなければならぬことがあるのですか？

男1 それは……せやから、朝起きて、歯を磨いて、朝ごはん、（女

1に）いや、明日からはちゃんとしますよ、とにかくね、それから家を出て……

女4 それから……？

男1 それから……それから、家に帰って、晩ごはんを食べて、歯を磨いて、眠るんです……

女1 この部屋でもやれるやないですか。

男1 ええ……

女2 もうすぐですよ……

男2 危ないですよ……

女3 （女4に）ところで、他の部屋は？

女4 なんです……？

女3 いいのかしら？

女4 まだ私が出るタイミングを窺っているのですか……？

女3 女にはやるのがたくさんあるんです。

男1 そうなんです……？

女3 ええ……

男1 なにを……？出来ればわたしにも教えていただいて……

女3 まずはお化粧をします、そして街を歩きます、どこに行くんですよ、どこにも行けないから、街を歩くんです、電車にも乗ります、どこにも向かうんやありません、どこにも辿り着かないから、いつもの電車でいつもの駅に降りるんです、そこでもお

化粧をします、たまにはおしゃれなカフェにもいきます、喉が渴いたんやありません、本当に、たまの贅沢なんです、そしてお化粧……そして、ときに子どもを産みます、そして、いつかはその子にお化粧をしてあげるんです……

男1 そうですか……

女3 あなたはなにかを産みますか？

男1 なにも……お化粧だってしません……

女3 そうでしょうね。

女1 お化粧くらいしなさいよ。

男1 お化粧くらいするようにします……

女4 わかりました……

男2 なにがです？

女4 では、こうしていただだけませんか……？

女1 なんです……？

女4 この中に、1人だけ残ってください……

女3 1人だけ？

女4 ええ……もうすぐ象がやってきます……

男1 象……

女4 そのときに誰もいないんじや、誰がその世話をするんです？

男2 それもそうですね……せやけど、その1人はどうやって決めるんです……？

女4 それはご自由に……

男1 ジュウはムシバを産みます……いや、ジュウをムシバにやっ

たかしら……？

女3 自由を蝕む……？

女1 ええ……せやからすでに、ここに自由なんてものはありません……

男2 （女2に）あなた、あなたも話し合いに参加したらどうなん

です……

女2 （うわの空）ええ……

女3 せやけど、わたし達はさつき知り合ったばかりなのに、そんな、誰かを選ぶやなんて……

女1 だからええんやないですか？

女3 だから……？

女1 ええ、あまりにお互いを知り過ぎていると、あの人はここは悪いけど、あそこはええとかなって、なかなか決められんくなるでしょ？よく知らんからこそ、単純に決めてしまえるんやないですか……よく知らないからこそ、単純に顔の好き嫌いとか……

男1 (男2を見て) 顔……？

男2 なんですか？

男1 いえ……

男2 あなたやっぱり……

男1 いや、そんなあれやありませんから……

男2 そんなあれって……わたしに残れと言うんですか……？

男1 いや、だから、好き嫌いですから……

女3 そんな、顔がちよつとあれやからって見殺しにするんですか？

男1 見殺しやなんて、わたしはただ……

男2 ちよつと、なんですか、ちよつとあれって……？

女1 確かにそれはひどい話ですね。顔がちよつとあれやからって……

女3 そうですよ……顔がちよつとあれやから殺すやなんて……

男2 だから、ちよつとあれってなんですか……

男1 いや、わたしはそんなつもりやなくて……

女1 決まりやないですか……？

男1 なにが……？

女1 そりゃあ、そんなひどいことを言う人が残されるべきでしょ……

女3 そうですね……

男1 ちよつと、それじゃあ、わたしに残れって言うんですか……？

男2 だって、あなたはわたしを顔で殺そうと……

男1 殺そうやなんて、そんな……

女1 それに、あなたはひどくうっかりで、反省を知らず、盗人で、煙草を吸うたらあかんに吸おうとして、人の顔を侮辱し、他人を責めて、嘘をつき、そして、まさに今、人を貶めよう……

男1 いや、それは……

女1 それに、なにより、あなたはすべての罪を背負ってるんですから。

男1 そんなもん、背負いたくて背負ったんやありませんよ……

女1 そして、そうやってなにもしようとしなさい。

女3 その上、あなたはなにも産まず、お化粧すらしない。

男1 (ひどく傷ついて) それはそうですが……

女3 (優しく) やることができて、ちよつとよかったやないですか。

男1 しかし、それは(男2を指し)この人も……

男2 せやけど、あなたは象を待つてはるんでしよう？

男1 象……

女1 どうして象を待つているのか……わかりましたか？

男1 象……それは……昔……そう、昔、わたしはサーカスにいたんです……そこでわたしは大きな象の世話をしていました……あの象の、優しい目、いえ、悲しい目……いいえ、優しくも悲しく

もない目……それを見ていたら、それを見ていたら、わたしは、なんもかんも失ったんです……失ったんです……

女2 (突然に) できました……

女1 なに……？

女2 ガスがでました……

女1 ガスが漏れる音が聞こえる。

女3 ちよつと……危ないんやない……？

女2 だって、ずっとこれを探してたんやないんですか……？

男2 これって……？

女2 ガスを……

男2 ガスなんかなんに使うんです……？

女2 なんについて、それは……なんでしたか……？

女3 なんやったかしら……？

女1 あら……（と、マッチ棒を取り出す）

女2 マッチですか……？

女1 マッチです……（男1に）どうぞ……

男1 わたしに……？（と、受け取る）

女1 ええ……確かあれがありましたでしょう……？

男2 （マッチ箱を差し出して）これですか……？

女1 ええ、これですよ……どうぞ……（と、マッチ箱を男1に渡す）

男1 どうしてわたしに……？

女1 象を呼ぶためやないですか……

男1 火種が象を……（受け取って）そうでしたね……

女1 （女4に）決まりました。

女4 はい……

男2、女1、女2、女3が男1を見る。

以下の男1の語りの間に男2、女2、女3はそれぞれに別れの言葉を残し、順に去る。

女4 よろしいですか……？

男1 （ぼんやりと）ええ……象がやって来るなら、それも悪くはないんやないかって思いますよ……そうですね、わたしはずっと待ってたんです、ずっとずっと、象がやって来るのを……象はね、滑稽な生き物です、自らをその大きさが故に苦しめ、その大きさが故に大量の食物を必要とします……（男2が去る）象は滑

稽な生き物です、サーカスの象はその最たるものです、野性を失

い、人間に飼われ、あげくには芸までも仕込まれ……それはもはや象ですらありません……（女2が去る）象は滑稽な生き物で

す、それがなんなのか、すでに誰にもわからないんです、ただ、大きくて、その大きさが故に、ただ、大量の犠牲を必要とし、た

だ、破壊をします……中身の無いその大きな生き物がなんなのか、あるいはなんやったのか、誰も知りません、誰も知らないの

です……（女3が去る）象は滑稽な生き物です、それがなんなのか、あるいはそれがなんやったのか、もはや誰にもわからないので

す……もうすぐその象が、またここへやって来るんです……

女4 （扉を開けて）どうぞ……

男2 （男1に）それでは……（と、去る）

女2 （男1に）お元気で……（と、去る）

女3 （男1に）さようなら……（と、去る）

男1の語りが終わる……

女1 （3人が去ったのを見送り）そしたら、私も……

男1 煙草はもういいんですか……？

女1 またよそでやりますよ。

男1 そうですか……わたしはここでやるんですね……

女1 （微笑んで）そうですね……それでいいんやと思います……

男1 （それを見送って）灰皿はありますか……？

女4 灰皿……？そんなものは必要ありませんよ……

男1 しかし、わたしは煙草をやりたいのですが……

女4 すでにここは灰だらけやないですか……

いつからか、チラチラと、雪のような灰が降っている……

男1 雪……? いや……

女4 あなたのおじいさんやおばあさん、ひいおじいさんやひいおばあさん、そのまたひいおじいさんやひいおばあさん、そういった方々です……それでは、なにかありましたら、なんなりと……
(と、去る)

ガスの漏れる音だけが聞こえる。

男1はしばらくぼんやりしたのち、女3が忘れていったのか、化粧ポーチを見つけ、中身を机の上にはら撒く。

男1は椅子に座り、煙草をくわえ、慣れない手つきで化粧を始める。それは出来損ないのピエロのようで、哀れなほどに滑稽である。

ガスの漏れる音はつきりと強くなる。

男1は化粧を終えて、ゆっくりと、マッチに火をつけて……

おわり